

自己評価報告書

平成23年 5月19日現在

機関番号：13201
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2011
課題番号：20520377
研究課題名(和文) 音注の訓詁学的研究

研究課題名(英文) On the explanatory function of phonetic notation

研究代表者

森賀 一恵 (MORIGA KAZUE)
富山大学・人文学部・教授
研究者番号：60243094

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：中国語学

1. 研究計画の概要

本研究課題は、従来の音注研究では重視されてこなかった音注の訓詁学的な役割に焦点を当て、十分なデータを蓄積した上で、經典の注釈類の音注が持つ訓詁学的な意味を、史の変遷の可能性も考慮に入れつつ明らかにしようとするものである。

2. 研究の進捗状況

具体的作業としては、まず陸徳明『經典釋文』(通志堂經解本)毛詩音義、論語音義、禮記音義の經文に附された音注(反切、直音、必要に応じて經文のテキスト異同)に関する記述を抜き出して表を作成し、次に朱熹の『詩集傳』、『四書集注』(中華書局本)論語集注・大学章句・中庸章句の經文に見える文字に附けられた音注(反切、直音、必要に応じてテキスト異同)を比較しながら対照表の作成を進め、通志堂經解本『經典釋文』、中華書局本『四書集注』のテキストに問題があるように思われる場合には、国内の研究機関に赴いて、異なる版本も参照している。『經典釋文』と朱熹の音注の対照表完成後は、それに基づいて、一般的な多音字について、二書の音注の付け方を比較し、二書が多音字に対する注音態度の違いを明らかにする。現在、当初の予定通り、『毛詩』『論語』『礼記』大学・中庸篇の『經典釋文』と朱熹注の音対照表の入力は終了しており、『論語』と大学・中庸については個別の分析を行い、その結果は発表済みである。『毛詩』については量が膨大であることから、データのみ公開している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

当初の計画通り、研究が進行しているから。

4. 今後の研究の推進方策

今後はデータの精度を高めるべく、校勘作業に力をいれ、『毛詩』の『經典釋文』と朱熹注の違いについてまとめ、最後に『經典釋文』と朱熹注について総合的に違いを分析する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ①森賀一恵、史焯『通鑑釋文』と胡三省『資治通鑑』、富山大学人文学部紀要、49、113-139、2008、無
②森賀一恵、毛詩音対照表、富山大学人文学部紀要、51、65-113、2009、無
③森賀一恵、論語音対照表、富山大学人文学部紀要、53、103-137、2010、無

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕